

WHO-FIC トロント会議報告

主催	WHO 及び WHO-FIC 北米協力センター
開催期間	平成 22 年 10 月 16 日（土）～22 日（金）
会場	カナダ、トロント マリオットダウンタウンイートンセンターホテル
参加者	WHO, WHO 協力センター、厚生・統計関係部局、オブザーバー等約 200 名

主な議題について

(1) 各種委員会報告

●死因分類改正グループ (Mortality Reference Group (MRG))、Mortality TAG (mTAG)

<MRG>

- URC への提案課題のうち継続審議 11 項目、新規提出項目 16 項目について検討

<mTAG>

- メンバー紹介、今後の活動内容の提案についての検討。
 - mTAG と MRG の役割分担、具体的な活動内容の不明瞭さが課題。

<MRG、mTAG 合同会議>

- 外因 TAG から ICD-11 に向けての構造変更について趣旨説明がなされた。
- MRG として、改訂に向けて総論のルール変更などが検討された。
- MRG 議長には Donna Hoyert, Patricia Wood が選出。

●疾病分類グループ (Morbidity Reference Group (MbRG))、Morbidity TAG (MbTAG)

<MbRG>

- MbRG は 2015 年の ICD-11 採択時まで活動を休止することが決定された。残された課題は他の委員会や TAG で継続して議論される予定。
- 議長の選挙も 2015 年まで見合わせる。

<MbTAG>

- MbTAG のメンバーは MbRG より 6 人移行し、その他の MbRG メンバーはオブザーバーとして参加することが決定。
- MbTAG の目的、機能について議論。
- 改訂プロセスの現状、iCAT の機能の確認。
- 取り組むべき論点リストが作成され、他の TAG との関連、会議の開催等合意形成方法について議論。

●生活機能分類グループ (Functioning and Disability Reference Group (FDRG))、fTAG

- ICF の使用に関する倫理的ガイドラインの改正案が提示。

- 今後メンバーに回覧して意見を求め、集約後改正手続きに載せる予定。
- URC（分類改正改訂委員会）への ICF における提案課題の検討。
 - ICF-CY（国際生活機能分類—児童版）作成時に修正された ICF との共通部分に関する小改正提案である 15 提案について、URC への提案に先立ち再度検討がなされ、今回の URC へ提案されることとなった。
- 議長より f TAG と FDRG が分かれて議論を行う旨指示あり、以下の条件でメンバーが承諾。
 - FDRG のメンバーも f TAG にオブザーバーとして参加可能。
 - f TAG の議論の内容について FDRG に説明される。
- ICF のユーザーガイドのドラフトが提案された。
 - ドラフト案の評価・見直しのためのグループを組織することとなった。
 - ユーザーガイドの完成後にコーディングガイドラインに着手する予定。
- ICF e-learning tool 等の教育用ツール作成の進捗報告。
- ICF と ISO9999 の整合化（Harmonization）のタスクグループからの進捗報告。
- 議長には Gerold Stucki, Ros Madden が選出。

●分類改正改訂委員会（Updating and Revision Committee (URC)）

- ICD 分野

2010 年は 101 の提案があり、本会議では 48 件が審議された。最終結果は以下の通り。

○ 受理	60 提案
○ 不支持	12 提案
○ 持ち越し	16 提案（そのうち 7 提案は疾病のコーディングルール）
○ ICD-11 への提案	6 提案
○ 取り下げ	7 提案

主な議論：・痔核（循環器の章から消化器の章へ）
 ・心房細動と心房粗動 他

- ICF 分野
 - FGRG より提出された 15 の提案について議論。
- 議長には Mea Renahan (ICD), Francesco Gongolo (ICF) が選出。

●教育普及委員会（Education and Implementation Committee(EIC)）

- ICD-10、ICF の各ウェブ・トレーニング・ツールの進捗状況の紹介。
- ICF 普及データベースについて
 - 協力センターに質問票を配布し、結果を来年 1 月に発する予定。
- 国際疾病コーダー試験について
 - パイロット試験が韓国で実施され、今後同試験を日本（日本病院会）とオランダで実施し、その結果を次の年央会議で報告する予定。
- ICD の活用に関する「ベスト・プラクティス」について、10 件の事例の発表。
- EIC が作成した教育用ツールはシェアポイントに掲載される旨説明。

- 議長には、Cassia Buchalla, Sue Walker が選出。

●電子媒体・ターミノロジーグループ (Informatics and Terminology Committee(ITC))

- ICD の多言語サポートについての議論。
- ICHI における ClAML(多言語変換)の開発報告。
- GTK(分類ツールキット)の開発報告。
- IHTSDO とのジョイントセッション
 - SNOMED-CT と ICD-10 とのマッピングについて。
 - WHO-FIC のトピックについて。
 - 今後もさらなる合同の議論が必要、との合意。
- ワークプラン、取り決め事項についての検討。
- 議長には Sukil Kim, Stefanie Weber が選出。

●国際分類ファミリー拡張委員会 (Family Development Committee(FDC))

- ICHI (医療行為の分類)の開発報告。
 - 現在提案されているコンテンツモデル、Target, Action, Means を三つの軸とする構造について説明。
 - ICD-9CM Vol. 3 を基礎として作成されたサンプル ICHI の報告。
 - 他の主要な行為分類とのマッピング作業の報告。
- SHA(A system of health account)マニュアルの改訂作業、改訂後の SHA マニュアルの ICHI への活用可能性について紹介。
- ICPS (患者安全分類)の概要・進捗状況について報告。
- ICTM (伝統医学分類)の概要・進捗状況について報告。
- Chair には、Richard Madden, Huib ten Napel が選出。

(2)全体会議

●諮問委員会 (Council)

- コラボレーションセンターと地域ネットワークのレビュー。
- RSG のシュート議長より ICD 改訂の状況と iCamp の報告。
- WHO と IHTSDO が 2010 年 7 月に正式に調和に向け合意したと報告。
 - これにより WHO のメンバー国は WHO の活動に関連した研究目的に限り、ICD とリンクした SNOMED-CT にアクセスできることとなる。
- 今年度総会会期中の各委員会・レファレンスグループの共同議長の選挙についての説明があった。(各国 1 票にて投票。候補者が 2 名以上の場合は無記名にて施行。)
- 各委員会・レファレンス・グループよりワークプランのレビュー。
- 「Preserving and Expanding the WHO-FIC Network」と題し、WHO-FIC ネットワークの経緯、問題点についてのプレゼンテーションがなされた。

- 次回の WHO-FIC 諮問委員会中間年次会議は 2011 年 4 月を予定。
WHO-FIC 総会は南アフリカにて 2011 年 10 月～11 月を予定。

●WHO-FIC&IHTSDO ジョイントセッション

- IHTSDO と WHO が ICD と SNOMED-CT の調和に向けて協力していくことで合意したことを受けて、ジョイントセッションが開催された。
- ICD・SNOMED-CT の概要、協力の必要性、ワークプラン、作業を行う組織・メンバーの紹介。
- 実際に SNOMED-CT を活用している組織として、米国の非営利医療保険グループである Keiser Permanente や英国 NHS のシステムの例の紹介。

●全体会議「データが影響を及ぼす」～カナダ・世界の観点から～

- 主催国カナダより CIHI の組織活動についての紹介。
- 10 月 20 日「世界統計の日 (World Statistics Day)」の WHO おける記念式典の報告。
- WHO 各地域事務局よりデータの収集及び活用の現状、課題などについて報告。

●全体会議～ICD 改訂について～

- 改訂の進捗状況の確認
本年 9 月 15 日現在 20487 コンセプトのうち 14381 が変更なし。
Textual Definition は 10%が入力完了
目標としていた進捗状況には至っていない。
2011 年 3 月までに構造及び Textual Definition の完成、最低限のコンテンツモデルの入力終了を目指している。
 - TAG 間に大きな進捗の差がある。
 - 2011 年 5 月に β 版の公開を予定しているが、β 版は完成版でない可能性もある。

●ポスターセッション

【ポスターセッション 1 : ICF】

日本から ICF 専門委員会藤田伸輔委員が発表” Disease evaluation with ICF and ICPC-2 for disease control”

【ポスターセッション 2 : Mortality】

日本から ICD 専門委員会松本万夫委員が発表” Research on Appropriate Recording of ICD-Based Death Certificates for Improving the Accuracy of Mortality Statistics in Japan”

WHO-FIC 年次総会 URC 投票結果について

2010年10月17日,18日及び20日カナダ・トロントにおいて改正改訂委員会(update revision committee)が開催された。委員会決定の原則は全会一致であるが、不一致が生じた場合はWHO 担当官及び研究協力センター各国一票ずつの投票が行われる。反対意見を述べない限りは賛成と見なされる。

1) 投票の結果について

提案 101 件(うち 42 件が年次総会前に合意)

受理 60 件

<主な受理された提案>

・I84Haemorrhoids をK64 に移動し、Haemorrhoids and perianal venous thrombosisとする。K64 内の分類に内痔核の大きさと症状による分類を加えて再構築する。

・I48 心房細動および粗動を心房細動と粗動に分け、それぞれ細分化する。

・U コードを緊急コードとして使用する旨追記する。

先送り 16 件(うち 7 提案が疾病統計のコーディングルールの明確化)

ICD11 改訂 TAG への意見送付 6 件

否決 12 件

取り下げ 7 件

2) 日本の意見について

・受理 2 件 (心房細動および粗動、ルポイド肝炎を K75.4 自己免疫性肝炎の内容例示に移動)

・ICD11改訂 TAG へ意見送付1件 (房室ブロック及び左脚ブロック、その他の伝導障害の再構築)

・取り下げ(修正の上再提出予定) 1 件(脳動静脈奇形の出血を I60.8 から I61.8 へ移動する)

3) 提案する際の課題について

・ICD 改善の提案の記述様式 → 具体性

・ICD の構造やルールに沿った提案 → 保守性

・慣習や言語の問題ではない → 普遍性